

## 東寺・西寺・羅城門

(財)京都市埋蔵文化財研究所 近藤奈央

### はじめに

現在の京都の玄関口は京都駅ですが、平安京の玄関であった羅城門は、京都駅から南西方向の住宅地にありました。京都駅から烏丸通を九条通まで南下し、東寺門前を通りすぎて、さらに西へ行くと矢取地蔵が安置された御堂があります。その北側に石碑の建つ小さな公園があり、ここが羅城門の推定位置です。また、さらに北西へと足を運ぶと、中央に土山のある唐橋西寺公園に行き当たります。この土山が西寺の講堂跡で、周辺を含めて史跡公園として保存されています。一方、京都のシンボルとなっている五重塔が建つ東寺は、堂宇が建ち並ぶ南半については旧寺域を保っており、民家が立ち並ぶ北半についても、東寺子院や門、道路から往時の様子をしのぶことができます。このように、羅城門や西寺、そして東寺の地上の現況は対照的ですが、いずれも平安京の重要な遺構として多くの調査が行われ、数々の成果を上げています。

今回は、東寺や西寺、羅城門の発掘調査で明らかとなった事柄に加え、東寺東築地塀の調査から得た成果を合わせて紹介したいと思います。

### 1 平安京玄関口の視覚的効果

平安京は、羅城門を中心に、朱雀大路を軸に左右対称の位置に東寺と西寺を建造。

羅城門・・・正面 7 間、奥行 2 間、二重の楼閣

東寺金堂・・・正面 7 間、奥行 5 間、一階裳階付（桃山時代）

東寺五重塔・・・高さ 54.8 m（江戸時代）

西寺も東寺と同じ規模の建造物が建てられた。

平安京外から来た人々が最初に通る場所＝羅城門

### 2 羅城門跡

九条旧千本通交差点北側に位置し、公園内に「羅城門跡」の石碑が建てられている。

朱雀大路と九条大路が交差した南端に、平安京造営当初に造立。

楼上に王城鎮護の毘沙門天を安置。

弘仁七年（816）八月に大風で壊れ、天元三年（980）七月に暴風雨で倒壊。以後は再建されずに

荒廃。→治安三年（1023）に藤原道長が法成寺造営に使うために羅城門の礎石を運搬させる。

『今昔物語集』には、さびれた場所が葬地に変わっていったという説話が掲載。

渡辺綱の伝説→室町時代に謡曲や狂言の演目「羅生門」として成立。

羅城門推定地での発掘調査は今まで 4 回行っているが、その痕跡は一切確認されていない。羅城門付近の調査においても、氾濫堆積や流路堆積などが確認されるのみ。

鍋取川の流路によって、削平されたとみられる。鍋取川は旧堀川の流路で、現花屋町通付近から島原に入って南流し、六孫王神社西側を通り、羅城門まで流れていたとされる。

→平安京南端の中心を確認することができない。

### 3 西寺跡

九条七本松交差点の北西側一帯。

寺城南側は唐橋小学校および史跡公園、寺域北側は学校および民家。

大正 10 年（1921）3 月 3 日史跡指定。

朱雀大路を軸にして東寺と対称の位置にあった。東寺とともに、平安京内に造ることを許された同規模の官寺で、右京九条一坊九～十六町の 8 町を占めていた。

延暦十五年（796）に造寺長官を、翌年に造寺次官を任命。→本格的に造営開始？

正暦元年（990）二月に西寺が焼亡し、再建するまでの間、西寺で行っていた国忌を東寺で行っていたようであるが、再建の規模などは不明。

天福元年（1233）に塔が焼け落ちて以降は荒廃。

発掘調査は 20 数回におよび、伽藍配置や建物規模などが判明。

### 4 東寺（教王護国寺）

大宮通の西、九条通の北に位置する。

昭和 9 年（1934）3 月 13 日史跡指定、平成 6 年（1998）世界文化遺産登録。

平安京左京九条一坊九～十六町の 8 町を占めていた。現在は、南 4 町分に伽藍が残り、北 4 町分には、東寺の子院や学校、民家が並ぶ。子院の地割りは残存している部分も多い。南半の主要伽藍は現在も平安時代の寺域を継承。

現在、子院のある北側は東寺の事務をつかさどる政所院や、職人の住居街と推定される賤院があった。中世に子院となる。

西寺同様、延暦十五～十六年に、本格的に造営が開始したとみられる。

弘仁十四年（823）に、弘法大師空海に東寺が下賜。真言密教の根本道場として繁栄。

その後、火災などにより焼亡・再建を繰り返すが、主要伽藍部分については、ほぼ規模・位置を変えることなく存続。

調査は寺域を含め、北側の旧寺域においても実施。

建造物解体に伴う調査が多い。→東築地の調査。

## 5 まとめ

《参考文献・図版出典文献》

- 1 『史跡西寺跡』鳥羽離宮跡調査研究所、1977年
- 2 『東寺境内発掘調査概報』（『教王護国寺防災施設工事・発掘調査報告書』）近畿大学理工学部建築学科 杉山研究室、1983年
- 3 『東寺の建造物—古建築からのメッセージ』東寺（教王護国寺）宝物館、1995年
- 4 『平安京提要』角川書店、1994年
- 5 『平城京展』奈良国立文化財研究所、1989年
- 6 『甦る平安京』京都市、1998年
- 7 上村和直「平安京左京九条一坊・東寺旧境内1」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1993年
- 8 大立目一「平安京羅城門跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成22年度』京都市民局、2011年
- 9 柏田有香『平安京跡・史跡西寺跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007-4』）財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2007年
- 10 加納敬二『教王護国寺旧境内（東寺旧境内）』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2009-3』）財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2009年
- 11 上村憲章ほか『平安京左京九条一坊十六町—東寺旧境内遺跡—』古代文化調査会、2009年
- 12 近藤章子『史跡教王護国寺境内』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2009-13』）財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2010年
- 13 平尾政幸「東寺講堂須弥壇」『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2002年
- 14 吉崎伸ほか『東寺（教王護国寺）旧境内』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-7』）財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2002年

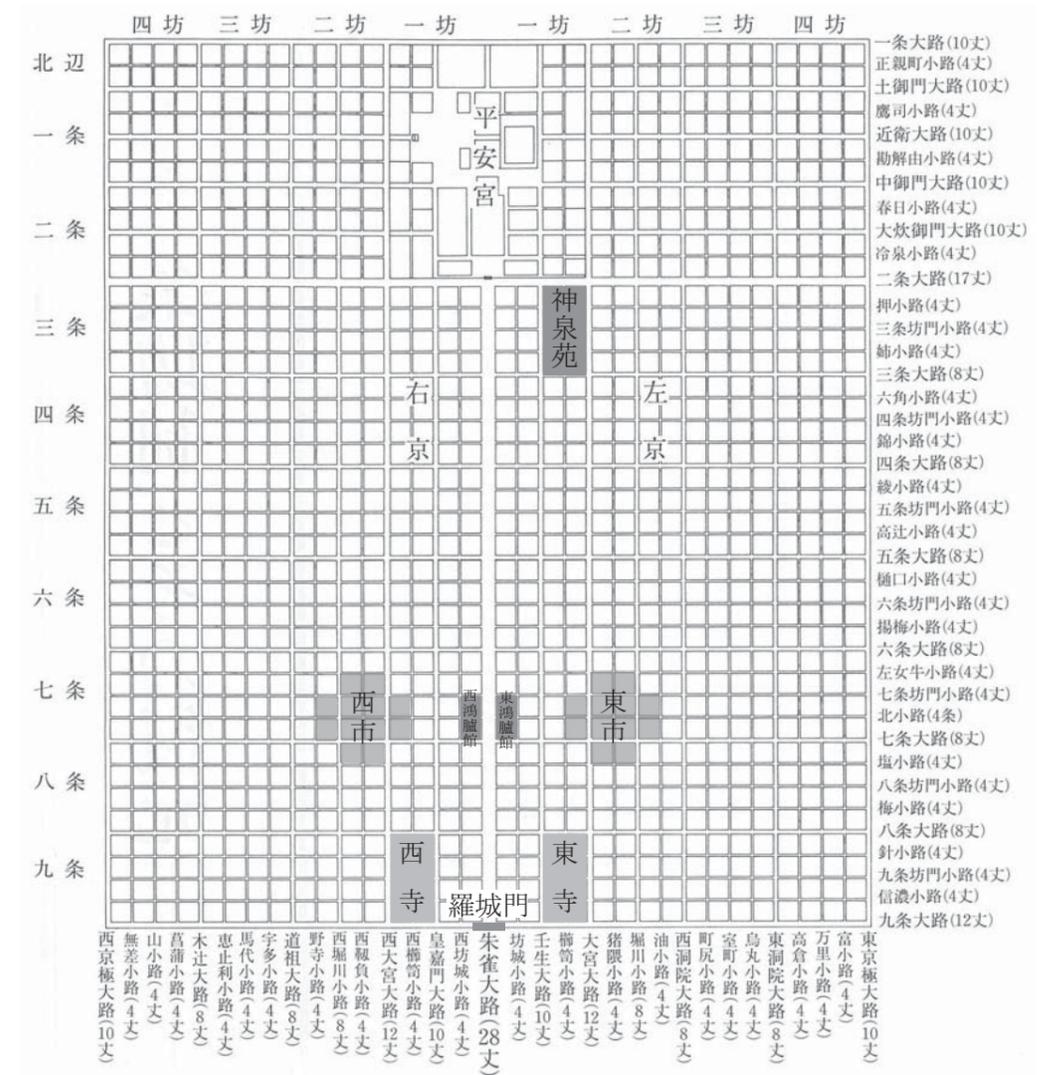


図1 平安京条坊復元図（文献4）

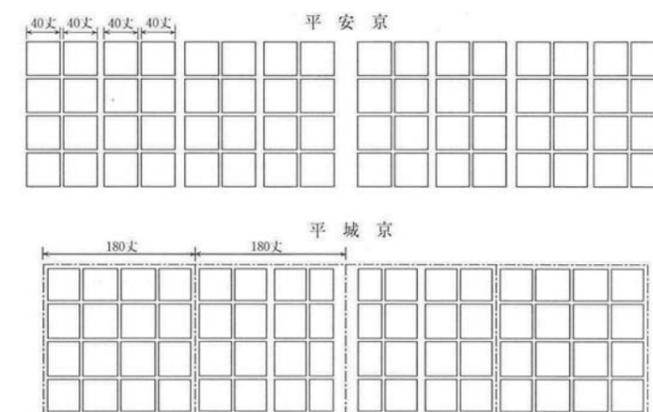


図2 平安京と平城京の条坊（文献4）

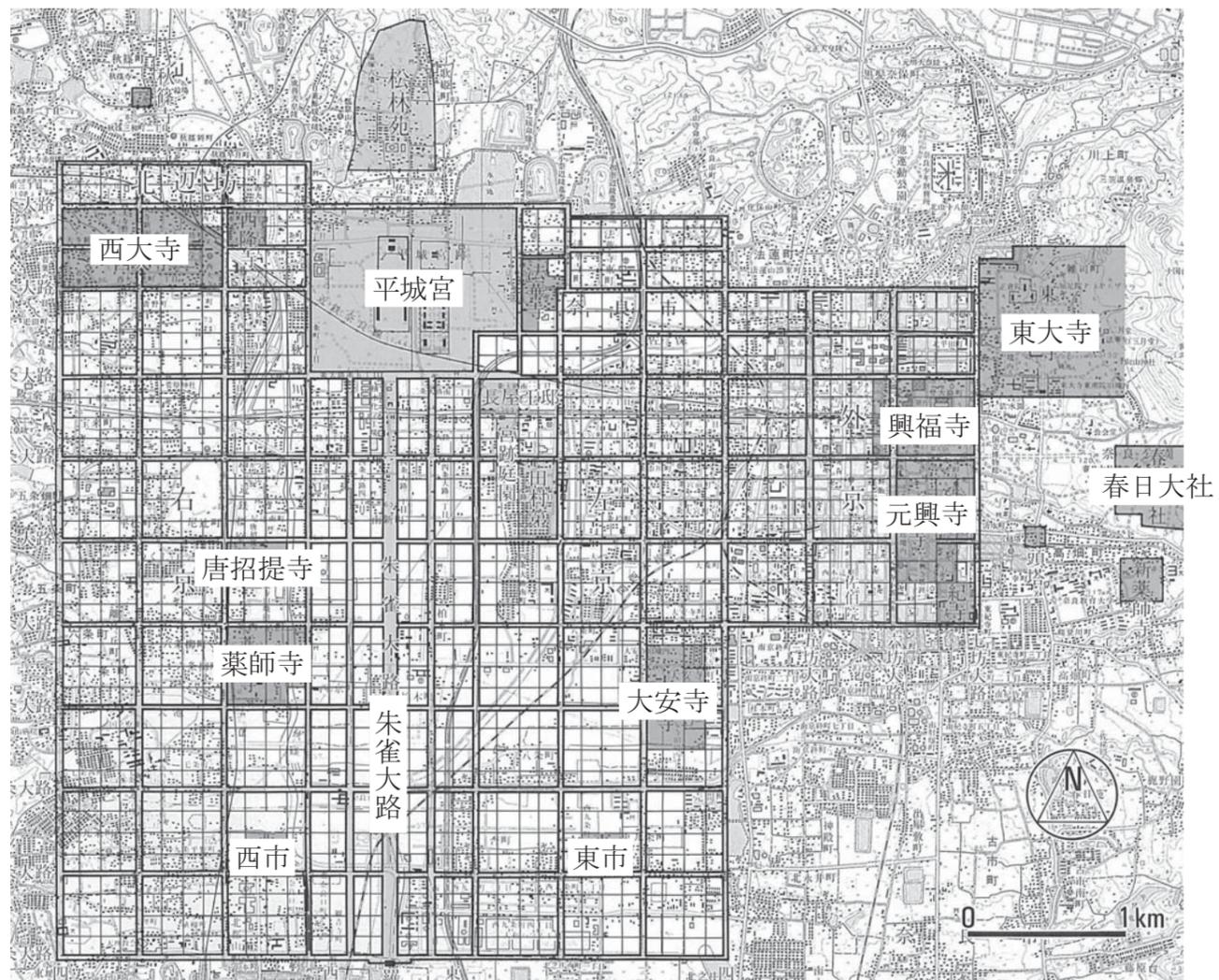


図3 平城京条坊復元図 (文献6)

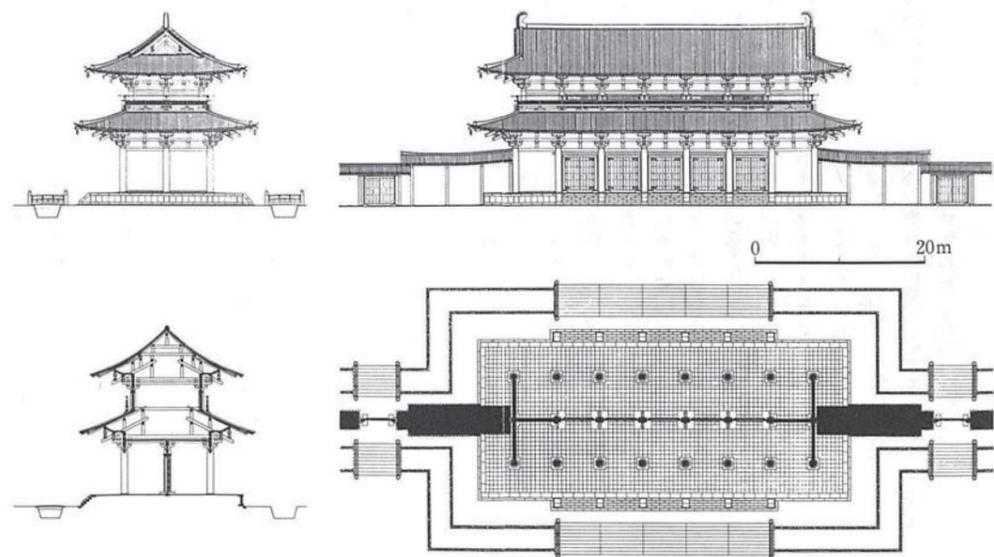


図4 羅城門復元図 (文献4)



図5 羅城門推定地周辺調査位置図 (文献8)

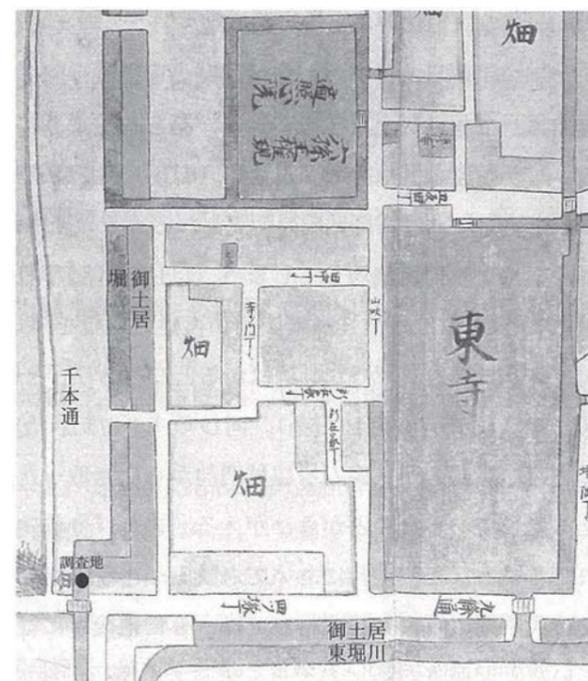


図6 「京師大絵図」  
(文献8、慶応義塾大学文学部古文書室所蔵)

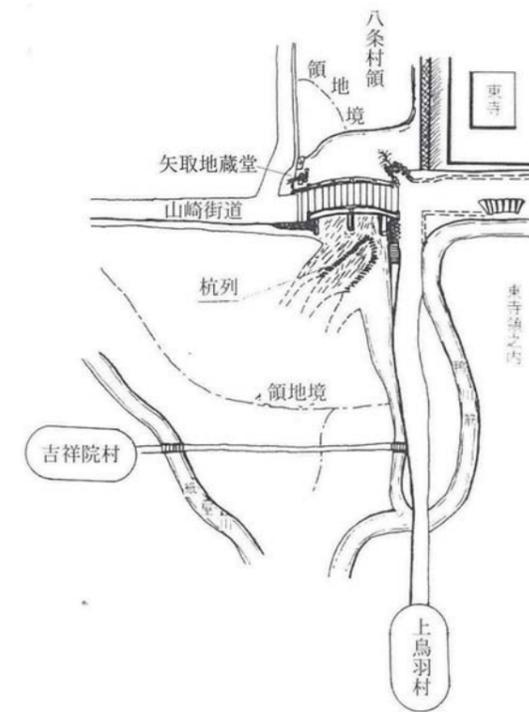


図7 「唐橋村近在諸村用水絵図 (文献8)





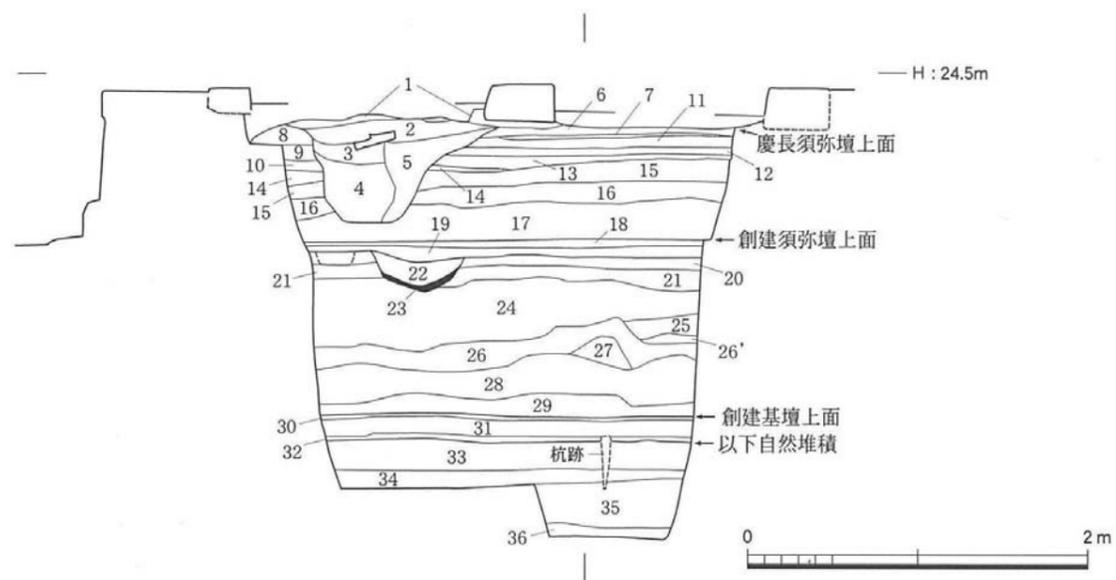
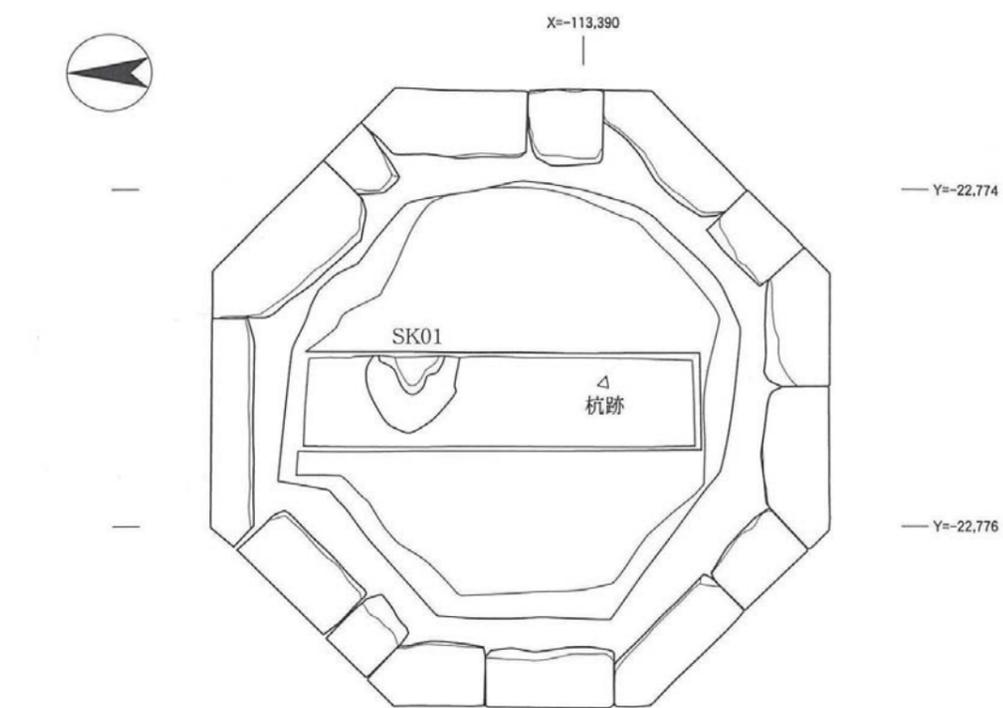


图 17 東寺講堂須弥壇実測図 (文献 13)



图 18 東寺講堂須弥壇杭跡検出写真 (文献 13)

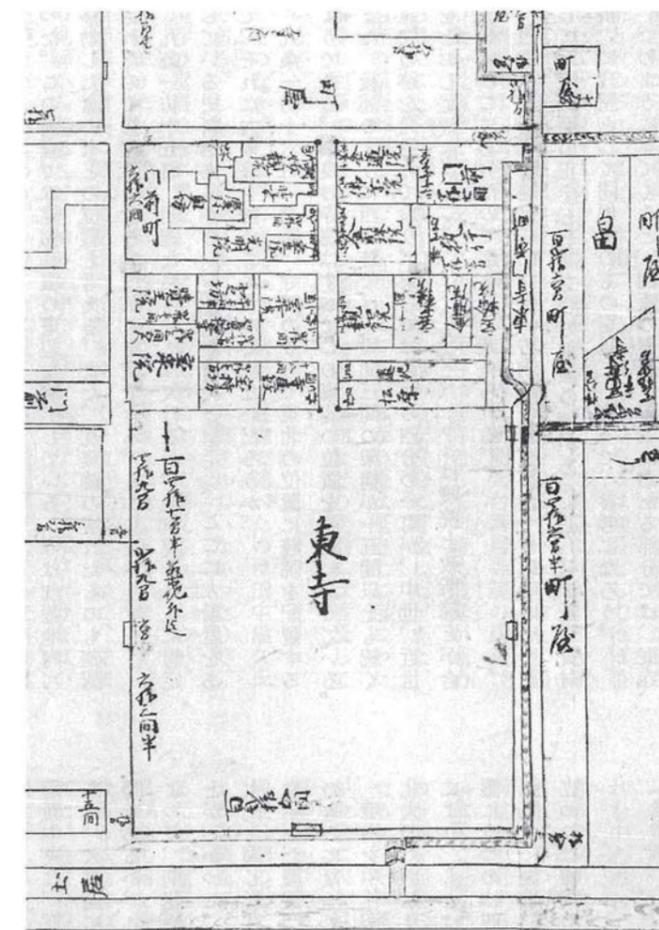


图 19 洛中絵図 (文献 10、宮内庁書陵部所蔵)

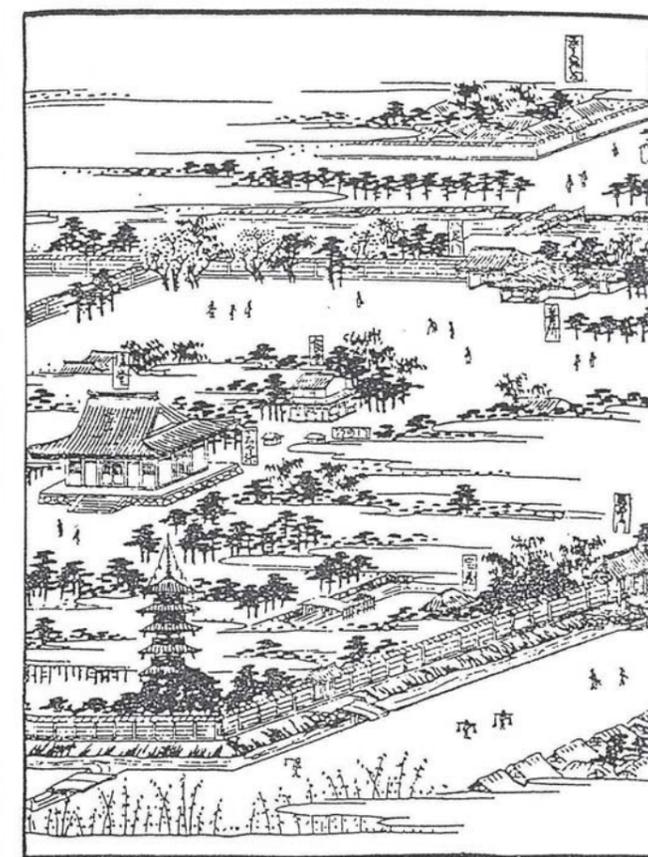
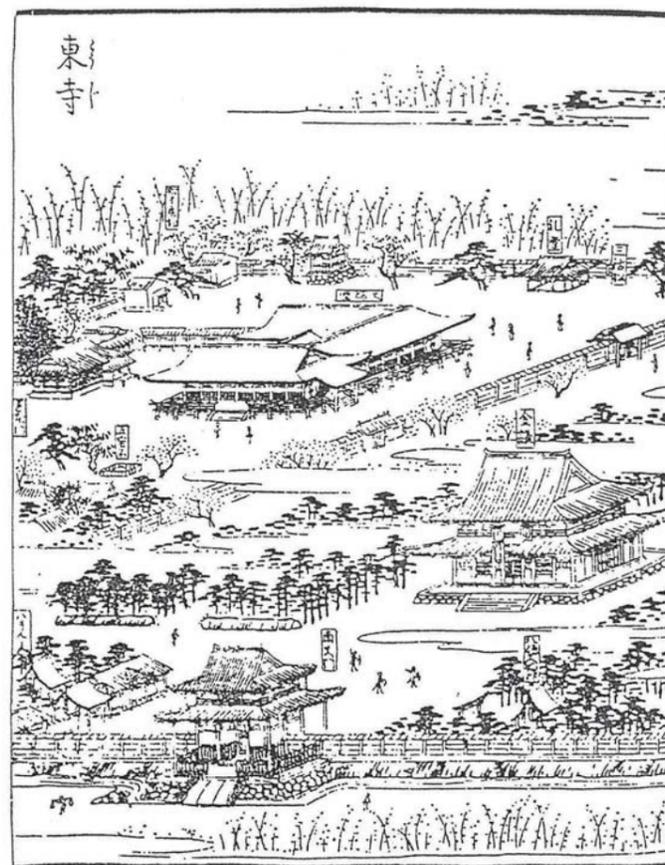


图 20 都名所風俗絵図 (文献 3)

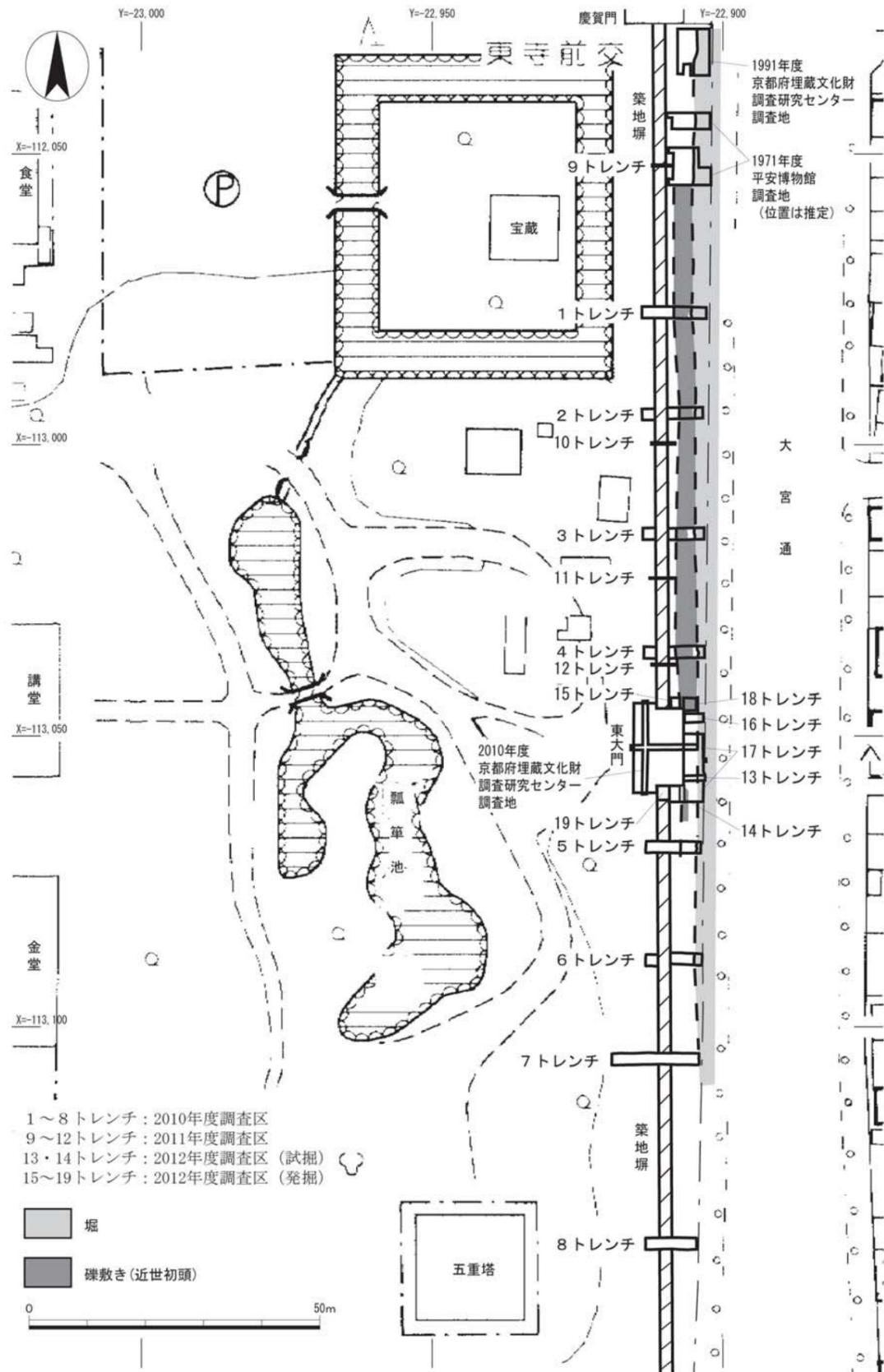


図21 東寺東築地調査区配置図 (東築地塀と堀との関係)

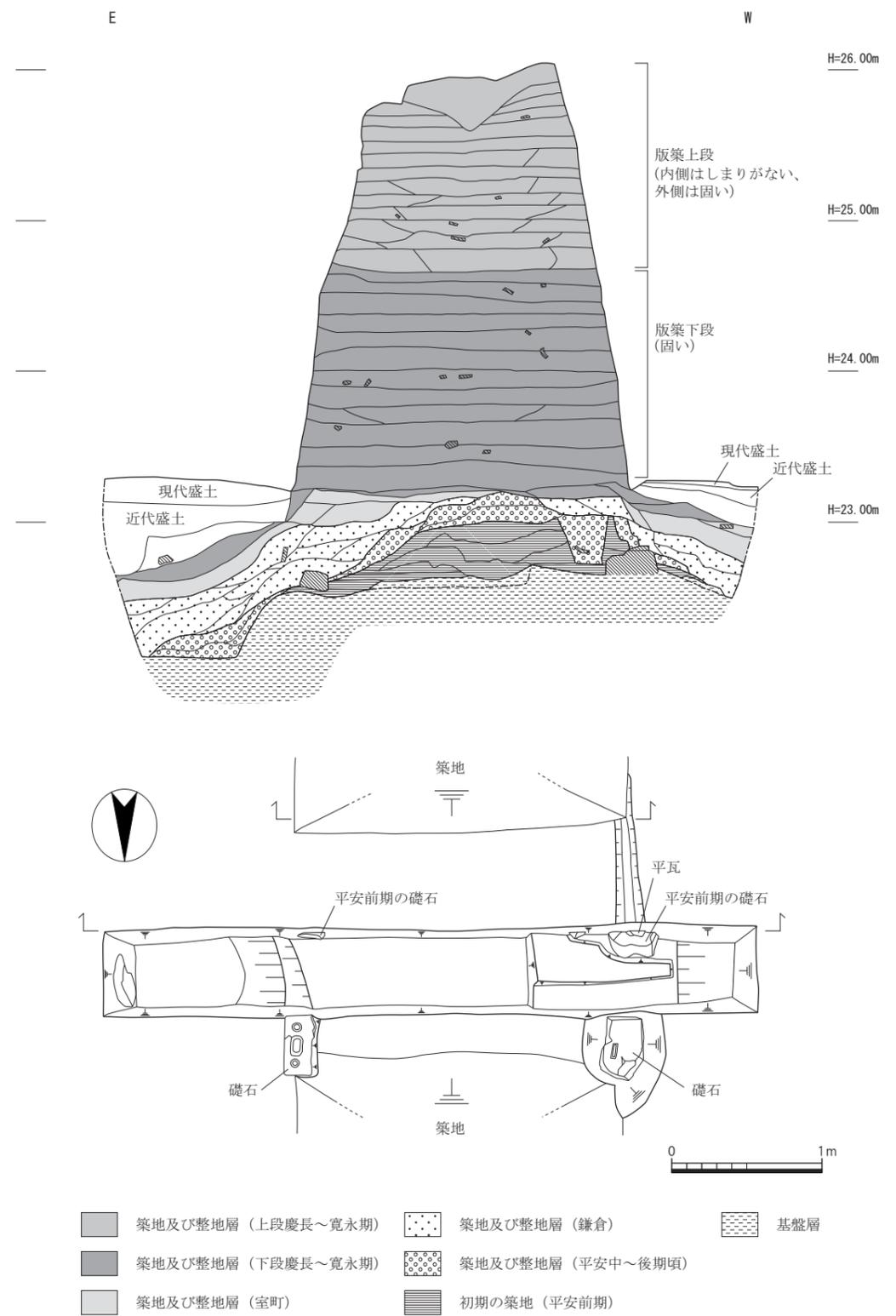


図22 東寺東築地10トレンチ実測図